

## 「滝川グライダーミーティング 2015」参考資料（警察・マスコミ用）

本資料は、滝川グライダーミーティング及びグライダー飛行に関する一般情報を記したものです。特に、一般的に「航空事故」と誤解されやすいグライダーの飛行場外着陸（アウトランディング）について、ご理解いただくための資料です。広く関係方面に周知いただけましたら、幸いです。

### 1. 滝川グライダーミーティングとは

たきかわスカイパーク（滝川市）で開催される、グライダーの競技講習会及び競技会です。開催趣旨は、以下の通りです。

#### （開催趣旨）

北海道の恵まれた自然環境と気象条件のもと、日本で最も整備された「たきかわスカイパーク」を活用して国内のトップパイロットがしのぎを削る日本滑空選手権（Japan Gliding National Championships 2016）の開催に先立ち、北海道におけるグライダーレースのポテンシャルを検証するとともに、グライダーレースの運営や日本選手権参加予定選手の飛行の慣熟を兼ねたグライダーミーティング（競技講習会、X' C 競技会）を開催する。また、ミーティング開催に合わせて、海外から第一線で活躍するグライダーパイロットを招聘し、全道エリアの調査飛行を行うとともに講習会及び選手権運営のノウハウを習得する。

オフィシャル HP はこちらです。（4 月 10 日開設予定） <http://compe3.wix.com/takimtg>

### 2. 開催時期は

< 競技講習会 > 平成 27 年 5 月 23 日～5 月 30 日（8 日間）  
< 交流会 > 5 月 30 日  
< X' C 競技会 > 公式練習日：5 月 31 日  
競技日：6 月 1 日～6 月 5 日（5 日間）

### 3. 開催場所は

たきかわスカイパーク（滝川市中島町地先石狩川河川敷）です。グライダーや軽飛行機などが離着陸するスカイスポーツ専用施設です。

### 4. 主催者は

たきかわスカイパークを管理・運営している、公益社団法人滝川スカイスポーツ振興協会

（URL <http://www.takikawaskypark.jp>）です。

後援には滝川市、（公社）日本滑空協会…全国のグライダー団体の統括組織

（URL <http://www.japan-soaring.org/>）…を予定しています。



5. 参加者は

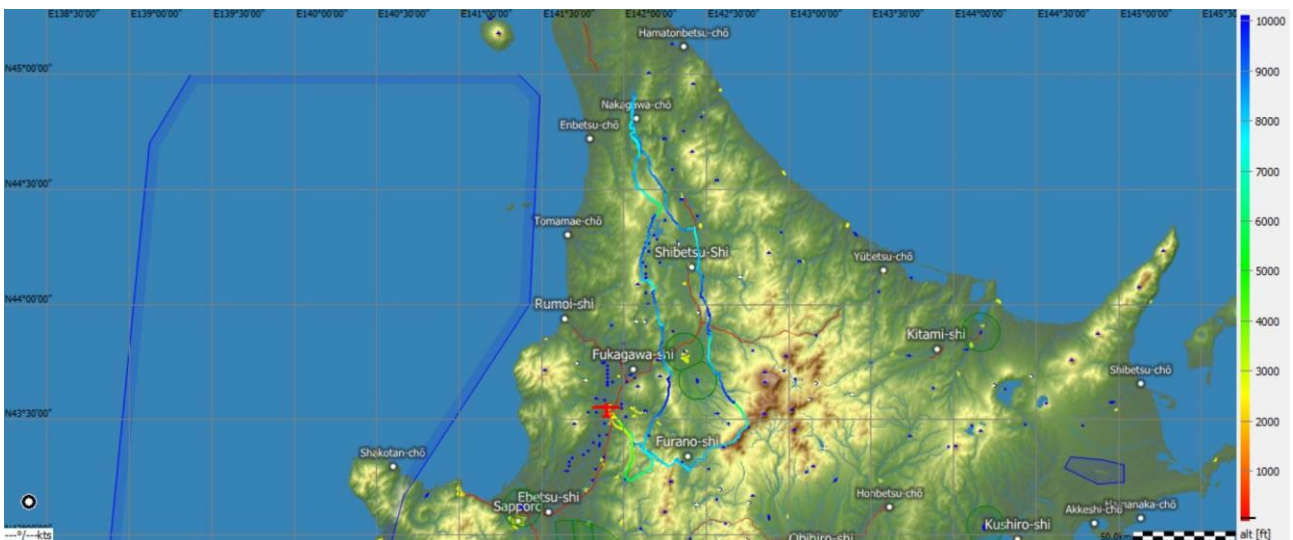
計 15～20 名程度のパイロットと約 15 機のグライダーが飛行予定です。  
参加選手の中には NZ 国のグライダーパイロット（招聘選手）が含まれます。



6. グライダーの競技とは

主催者はその日の気象状態に合わせ、予め大まかな飛行コース（タスクと言います…例：滝川～富良野～名寄～滝川）を設定します。

※今回の大会では概ね、滝川～当別～日高山脈南端～大雪山～音威子府を囲むエリア内でタスクを設定します。通常、200～300km 程度の飛行となります。選手（パイロット）は実際の飛行で上昇気流を探しつつ、各ポイント（旋回点と言います）をクリアし、一番早くコースを回って滝川まで戻ってきた者を勝者とします。通常、その日の勝者には 1,000 ポイントが与えられ、例えば 2 番目に早いパイロットには平均速度に応じたポイントが与えられます。（例：1 位のパイロットの平均速度が 100km/h、2 位のパイロットの平均速度が 80km/h なら、トップに 1,000 点、2 位のパイロットには 800 点が与えられます。） これを毎日得点集計し、会期中の総合点が一番多い者が優勝となります。飛行の解析には記録式の GPS 装置が用いられ、確実に各旋回点を回ったか、制限空域等を違反して飛行しなかったかをチェックします。



滝川～富良野～幌延 450km コース

## 7. グライダーの飛行とは

グライダーは速く飛ぶと高度が早く下がってしまいます。高度を得ようとする、上昇気流の中で連続旋回をすることになり、その間は通常前には進めず、平均速度は下がってしまいます。いくつかの上昇気流の中から特に強い上昇気流だけを選択しないと、やはり平均速度は上がりません。空気の上下動も場所により様々です。パイロットは空気の沈みの少ない場所、そして上昇気流が得られそうな場所…通常は直接目に見えませんが、パイロットは地面の状態や雲を見、風を感じてそれを判断します…を探りながら、飛行コースを辿ります。通常、上昇気流は午後遅くになると弱くなり、ある時間以降はなくなってしまいます。航空法では、飛行は日没までに制限されています。天気もどんどん変化します。予測通りに展開するとも限りません。

グライダーパイロットは飛行技術に加え、これらすべてを総合的に判断し、飛行しています。



## 8. 上昇気流が見つけれないときは

グライダーは高度がどんどん下がり、やがてどこかに着陸しなければならなくなります。

パイロットは安全に着陸できるよう、広い採草場が点在する河川敷や背丈の低い麦畑などを上空から探しあて、着陸します。これを「飛行場外着陸（またはアウトランディング）」と言い、いわゆる「不時着」と区別されています。



グライダーは航空法でこのような着陸が認められている航空機です。(航空法第79条、同施行規則第172条) もちろん、パイロットに怪我がなく、機体に損傷もない場合、航空事故には該当しません。(航空事故：航空法第76条にて規定)

9. 着陸したグライダーは

パイロットは携帯電話で予め空港事務所に提出した飛行計画を変更するとともに、無事に着陸した旨を空港事務所（滝川エリアの管轄：新千歳空港事務所）に通報します。また、仲間に着陸場所を連絡し、迎えに来てもらいます。

グライダーは現地で分解し、専用のトレーラーで運搬します。大人2～3名、約20分程度で分解することができます。



10. ご不明な点は

(公社) 滝川スカイスポーツ振興協会（担当：日口、石井、清水）まで

〒073-0035 滝川市中島町 139-4 たきかわスカイパーク内

TEL.0125-24-3255,22-2976 FAX.0125-23-3777

Email [sata@rapid.ocn.ne.jp](mailto:sata@rapid.ocn.ne.jp)